

木曽川上下流市村の交流と森林づくり

木祖村役場 振興課 岩原 政広

要 旨

木曽川源流の木祖村と下流の愛知県日進市が、友好自治体提携を結んだことを契機として、源流の国有林内に日進市による32haの分取造林事業を実現した。このことにより、過疎化とあいまって林業の衰退が懸念されている中、水源のかん養・森林資源の保護意識の高揚がはかられたとともに、上下流の交流の絆が一層深まった。

はじめに

本村は木曽川の最上流部に位置し、周囲を2km級の山岳に囲まれた人口3,800人の典型的な山村である。村の総面積のうち、山林が96%を占めており、その67%が国有林である。村の中央を北から南に貫流している木曽川沿いの標高1km地帯に集落が散在しており、村の中心部から名古屋市へ120km、東京へは180kmの位置にあり、中京圏との結びつきが強くその経済圏に含まれている。

村の産業は農業と木工業が中心であり、農業は高原野菜、主に白菜と肉牛の飼育が盛んで、特におんたけ白菜は日本一との評価を得て高値で取り引きされている。また、木工業は江戸時代からの特産品で全国に名を知られた「お六櫛」をはじめ全国の生産量の70%以上を占めるキャンパスの製造がその中心であり、昭和55年これにちなんで「キャンパスの里、日曜画家の村」の宣言をし毎年「日曜画家中部日本大会」が本村で開催され盛会である。

近年、本村もご多分にもれず山づくりに対する意欲が減退しており、伐採に植林が追いつかなくなっている現状から、何とか山を守りたい、豊かな森林づくりを推進したいという思いから、自治体友好提携を結んでいる下流域の愛知県日進市に話しをもちかけ、分取造林『平成日進の森林』の造成事業をスタートさせた。これを契機として両市村の交流がより親密となった。(図-1)

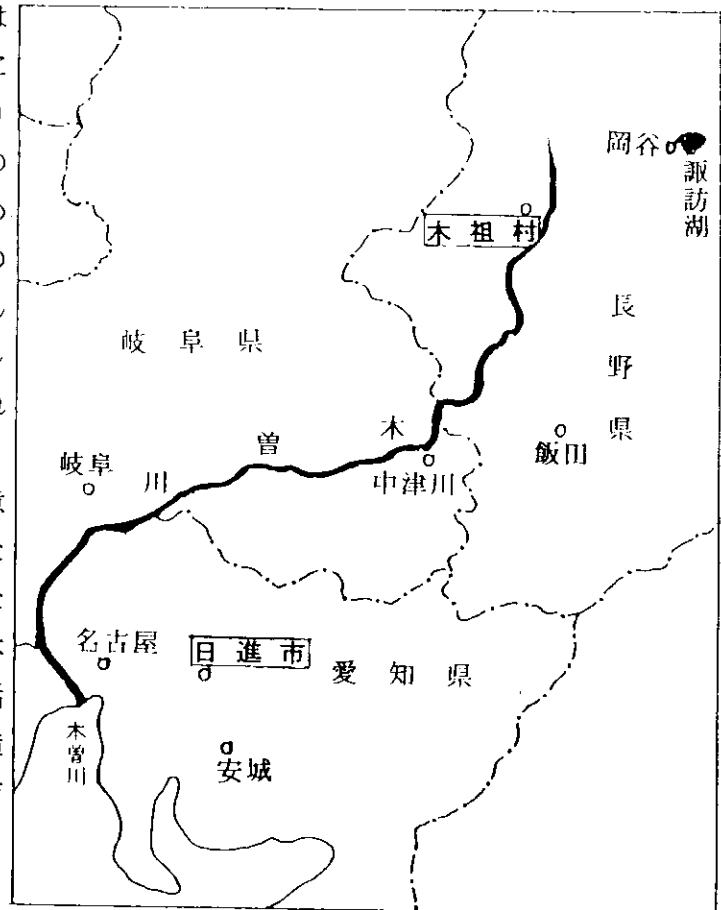


図-1 日進市・木祖村位置図

1、事業着手までの経緯

(1) 交流のきっかけ

木祖村と日進市との交流は昭和59年にさかのぼる。

当時、村の商工会青年部が日進市（当時は日進町であつたが、平成6年市に変革）の共同店舗を視察訪問したことがきっかけで、日進の商工会青年部が本村のスキー場やこだまの森のキャンプ場へ視察に訪れ、村の歓迎に感激。以来、村もイベント用のオリジナルグッズの制作を日進の商工会に依頼したり、日進側も市内の床屋で木祖村特産のお六櫛を使ったり、部員の1人が名古屋市天白区の駅近くに、岩魚や山女、山菜など木祖村の味覚を売り物にした民族風居酒屋『木祖むら』を開店させ、村のPRを買って出るなど親密な交流が続き、平成元年11月、商工会同士の姉妹提携の運びとなった。その後、平成4年4月には行政レベルでの交流も深めようと、両市村の友好自治体提携を結び、合同植樹祭の開催・少年野球の交流・森林教室の開催・キャンプ・スキー・地域の祭りやイベントへの参加・子供達の招待等親密な交流を続けている。（写真-1）



写真-1 日進市岩崎城春まつり

(2) 事業に取り組んだきっかけ

近年、木材価格の低迷は山林に対する投資意欲を減退させ、過疎化は林業従事者不足・高齢化を招き、林業の衰退に拍車をかけており、伐採に植林が追いつかなくなっている現状から、何とか森林を守りたい、森林を守ることは水を守ることであり、については森林づくりに下流域の応援を願いたいということで日進市に話を持ちかけた。生活用水・工業用水・農業用水の殆どを木曾川に依存している日進市には、「木曾川の恩恵に恩返しをしたい」ということで快く賛同頂き、分取造林『平成日進の森林』の造成事業が始まった。

2、事業の実施

(1) 契約までの経過

平成4年7月両町村事務レベルでの打ち合わせ会議を経て、同8月両町村長、営林署長が出席し事業について打ち合わせ会議開催。同10月日進町企画管理部長他が来村し事業候補地の状況を視察。同11月日進町の産業祭に営林署・木祖村共に参加し営林署から小木工品等の展示・即売を行い、営林署に対する理解を得る。平成5年1月日進町臨時議会において事業の概要が報告され、急速に話が実現化する。

同年4月長野営林局において、営林局長と日進町長との間で分取造林契約が締結される。

ここに至るまでに、一つの問題が浮上した。それは、植え付けから伐採に至る80年間の作業コストの問題である。

一般的に植林、育林事業に初めて参加する人々はその経費を知った時「植えておけば自然に育つはずなのになぜ・・・」という疑問を抱き易い。こうした作業や経費の内訳を説明するため、営林署職

員や木曾森林組合の担当者が日進に足を運ぶと共に、関係者を現地に招き事情説明に努めた。この結果、日進側も十分納得し「森づくり基金」7,400万円が設定された。

(2) 事業の内容

木曾川上流の森林資源の培養並びに町民の自然体験の場の確保を目的とし、平成5年から10年までの6年間に32haの国有林にヒノキを植栽し、80年後の伐採期には日進町が7・営林局が3の割合で分取しようというものである。

また、日進市ではこの分取造林事業全体を円滑に推進するため、藪原営林署・木祖村・木曾森林組合と4者協定を結び、具体的な役割について取り決めをしている。藪原営林署は、分取造林予定地を6年間で32ha準備し、地元の木曾森林組合が事業を請負、平成5年度から植栽・カモシカ防護柵の設置・下刈等を実施し木祖村が実行に係る監督検査業務をし、日進市に報告するというものである。(写真-2・3・4)



写真-2 分取造林地全景

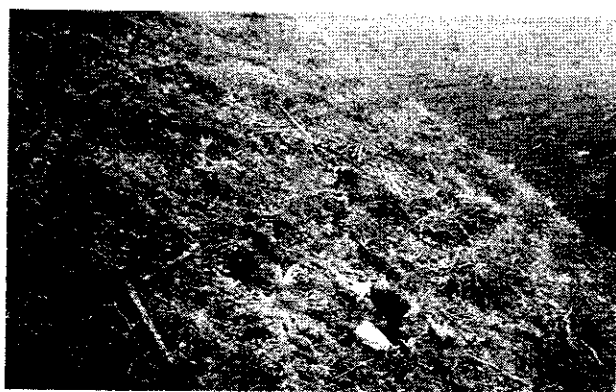


写真-3 植栽作業風景



写真-4 カモシカ防護柵設置状況

(3) 契約地

当地は小木曾国有林内にあり、国道19号線から北へ約9kmの所にあり、眼下に水資源開発公団の多目的ダムの味噌川ダムを見下ろし、遠くには木曾駒ヶ岳等が望める眺望の良い所で、自然体験・保健保養の場としても最適な場所である。日進市では、一帯を水源かん養、森林資源の保護また、市民の心のよりどころのシンボルと位置付け、『平成日進の森林』と命名し守り、育てている。

(写真-5・6・7)

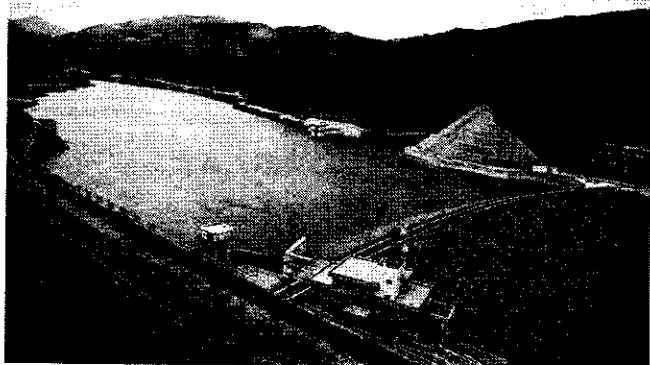


写真-5 味噌川ダム全景

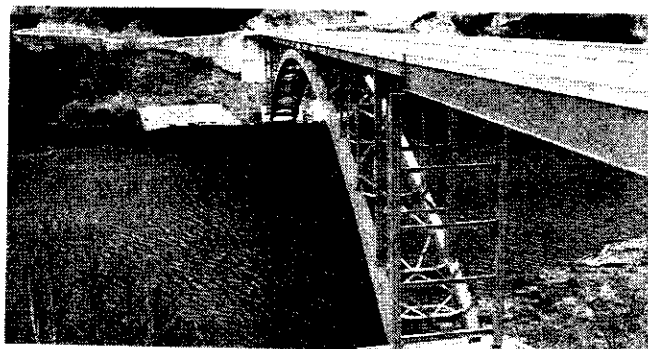


写真-6 奥木曾大橋

3、事業効果

(1) 村の対応

平成5年から始まったこの事業も4年間を経過し、4者協定に基づくそれぞれの役割分担が忠実に履行され順調に推進されている。この4者協定は、これまで積み上げて来た4者の信頼関係の証しであり、水の恩恵を受ける下流域の自治体と流域の水源を守る立場の人々との協力の一つのあり方の具現化である。

この事業を契機に、平成5年5月に『平成日進の森林』において記念植樹祭を実施、以後毎年行われる木祖村と藪原管林署の合同の植樹祭をこの地で開催し、日進市から行政・議会・一般市民を含めて、50～60名の参加をいただき盛大に行われている。今後とも各種事業、行事等を通じて交流の絆を更に深めて行きたい。(写真一7・8・9)



写真一7 「平成日進の森林」標柱前にて



写真一8 友好自治体提携記念植樹祭記念植樹風景



写真一9 懇親会風景

(2) 分取造林事業に取り組んだ成果

(ア) 水源かん養や森林保護のため、下流域の自治体が上流へ森林づくりをするケースは全国的にも数少ない例として、報道機関により広く国民にPRできた。また、「水源の森は都市の森」という本にも詳細に紹介されPRされている。

(イ) 下流域の人々の森林・林業に対する理解が深まった。

(ウ) この事業の実施により、上下流の交流の絆が更に深まった。

(エ) 両市村の恒久的な交流が約束され、地域社会の活性化及びふれあいに貢献できた。

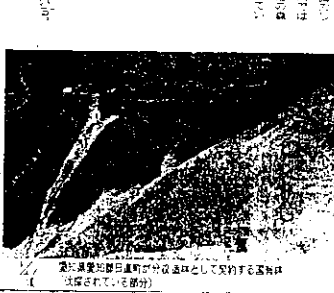
(オ) 管林署も請負事業体に対する事業量の確保ができ、支出経費の削減ができた。

(カ) この事業の取組を契機として、更に上下流一体となった森林づくりの普及・拡大を期待したい。(記事一1・2・3)

愛知県日進町 分収造林契約へ

日進町と木祖村の友好提携の一環として、分収造林事業がスタートした。この事業は、日進市と木祖村の友好提携の一環として、分収造林事業がスタートした。この事業は、日進市と木祖村の友好提携の一環として、分収造林事業がスタートした。

友好提携・木祖村内の国有林 上流の水源保全に協力



木祖村と日進町が分収造林事業として契約する国有林（上流の水源地）

木曾川の上下流の 町村が友好提携



木祖村 村長ら日進町で調印式
住民同士の交流も



調印式、握手を交わす町長



老婦病婦に木祖村の産物を出張の林家が花を届ける

記事-1

おわりに

このような、分収造林事業は林業に対する意識の高揚と水と緑を守る一端として重要な役割を担っている。水の大切さに思いを馳せる時、そこには必ず豊かな森林がある。上下流一体となって豊かな森林をつくり・守り・育てるという気風が更に広がることを期待したい。

日進市では、将来造林地の樹が成長する頃には森林の中に遊歩道やベンチなどを設け、散策・森林浴をという構想もある。未来に夢や希望を抱きつつ永い交流を続ける、上流と下流という異なる風土に暮らす人々を結びつけるこの分収造林事業が、森林づくりに一つの道を切り開くかけ橋となることを確信している。

日進市の森林づくりに対する熱意に感謝すると共に、今後とも各種交流を進め更に絆を深めたい。また、更なる分収造林事業の普及・拡大に向けて努力したい。



木祖村と友好提携の日進町
平成日進の森林に植樹

平成元年 11月1日 (土曜日)



日進町商工会と友好提携 木祖村商工会 19日に調印

日進町商工会と木祖村商工会の友好提携調印式が、19日（土曜日）日進市で挙

記事-3・4